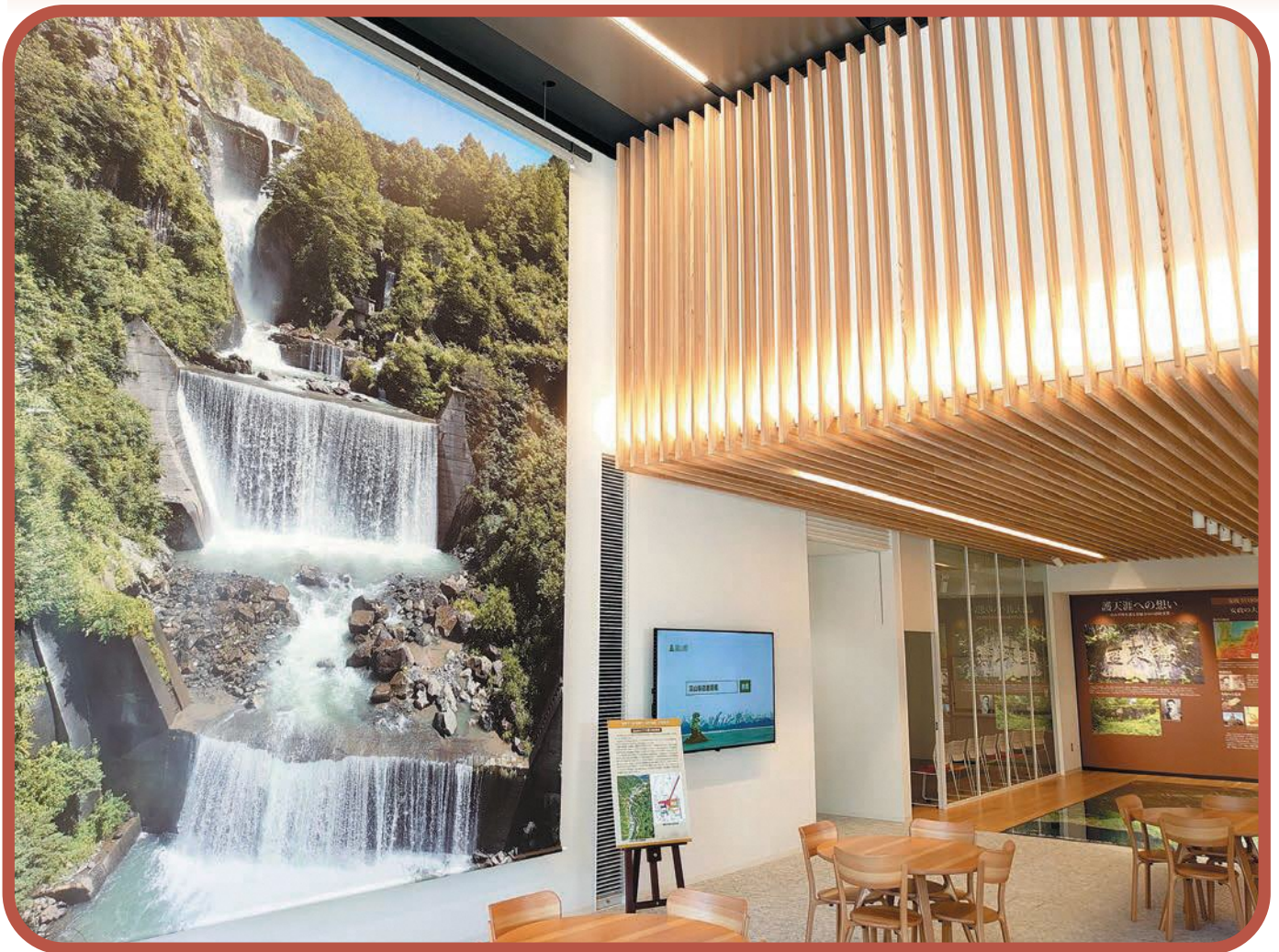


とやまの砂防

第75号

令和5年2月15日
発行



CONTENTS

富山県防災危機管理センター1階に「立山砂防コーナー」完成	1
立山砂防防災遺産シンポジウム	2
全国治水砂防協会 森山会長の「立山砂防現地視察」	3
令和5年6月『土砂災害防止「全国の集い」in 富山』開催決定	3
全国治水砂防促進大会の開催	3
おらっちゃんの砂防	4
土木センター、事務所紹介	4
後進に告ぐ	5
富山県総合防災訓練 in クロスランドおやべに砂防課参加	6
県治水砂防協会「通常総会」の開催	6
県治水砂防協会「立山砂防現地視察」	7
立山カルデラ砂防博物館 来館110万人達成	7
立山カルデラ砂防博物館で「砂防落語」開催	7
立山カルデラ砂防博物館ニュース	8

写真の解説

富山県防災危機管理センター1階に「立山砂防コーナー」完成

富山県防災危機管理センター1階（富山市新総曲輪1-7、令和4年10月より供用開始）に「防災と立山砂防」をテーマとした展示スペースが設けられました。

日本有数の急流河川である常願寺川の源流部で実施される「立山砂防事業」を紹介する壁面パネルをはじめ、平成21年に砂防施設として全国初の重要文化財に指定された白岩堰堤の大型タペストリー、常願寺川の源流から海岸までの様子を一目で確認できる約12畳の大きさの空撮写真の床面展示など、防災に対する啓発を行うとともに、世界文化遺産登録を目指す防災遺産・立山砂防の価値や魅力を発信しています。

世界遺産登録推進シンポジウム2022
立山砂防防災遺産シンポジウム

—日本固有の防災遺産 立山砂防の防災システムを世界遺産に—

1 開催趣旨

富山県は、関係機関や民間団体等と連携協力しながら、日本イコモス国内委員会によって「日本の20世紀遺産20選」に選出された富山県が世界に誇る防災遺産である、立山砂防の歴史的砂防施設群の世界文化遺産登録を目指しています。

本シンポジウムでは、世界遺産の最前線で活躍する専門家による講演やパネルディスカッション等をとおして、立山砂防の価値と魅力を広く発信しました。

2 概要

- (1) 日時 令和4年12月4日(日) 13:30~17:00
- (2) 会場 富山国際会議場メインホール(富山市大手町1-2)
- (3) 参加者 約450名(会場参加200名、オンライン参加250名)
- (4) プログラム



パネルディスカッション

13:30~	挨拶	開会挨拶 新田 八朗 富山県知事 来賓挨拶 国土交通省水管理・国土保全局砂防部長 三上 幸三 氏
13:45~14:55	基調講演	「防災遺産 立山砂防の価値とその評価」 産業遺産情報センター研究主幹、 日本イコモス国内委員会「技術遺産小委員会」主査 伊東 孝 氏
14:55~15:10	報告	「富山県の立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」富山県知事 新田 八朗
15:30~	パネルディスカッション	コーディネーター 西村 幸夫氏(日本イコモス国内委員会顧問) パネリスト 松浦晃一郎氏(第8代ユネスコ事務局長) 伊東 孝氏(産業遺産情報センター研究主幹、日本イコモス国内委員会「技術遺産小委員会」主査) 大野 宏之氏(一般社団法人全国治水砂防協会理事長、公益社団法人砂防学会会長) 西川 英佑氏(関西大学助教)

- (5) 主催 富山県世界遺産登録推進事業実行委員会
(事務局:富山県地方創生局観光振興室、土木部砂防課、教育委員会生涯学習・文化財室)



挨拶 新田知事



来賓祝辞 三上砂防部長



基調講演 伊東 孝 氏



報告 新田知事

パネルディスカッションでの主なコメント



西村 幸夫 氏(日本イコモス国内委員会顧問)
立山砂防は防災に対する人間の力の結晶であり、現在の安全安心に貢献しています。防災というユニバーサルな問題に対し、白岩堰堤のように立山砂防はアウトスタンディングな答えを出している。このアウトスタンディング・ユニバーサル・バリュー(OUV)を分かりやすく説明できるようにしなければいけません。これが09年から13回にわたりシンポジウムを重ねて少しずつフォーカスされてきました。立山砂防が加わることで、世界遺産のリストがもっと豊かになり、完全なものになりますと自信をもって言えるよう登録に向けて取り組んでいただきたいと思います。



松浦 晃一郎 氏(第8代ユネスコ事務局長)
登録を目指して辛抱強く取り組んでいただきたい。12年に京都が開かれた世界遺産条約採択40周年記念の会議では、地域社会が果たすべき役割が議論されました。登録された後の活用がより重要です。国内外の多くの人に見てもらい、理解してもらおう努力が必要であり、地域が役割を果たさなければなりません。



伊東 孝 氏(産業遺産情報センター研究主幹)
早く登録されるためにも、推薦書などの準備を早く進めたほうがよいと思います。イコモスから要請されて17年に「日本の20世紀遺産20選」を作成した際に立山砂防施設群を全体の3番目、土木遺産ではトップにリストアップしました。10年以上にわたってシンポジウムを開催するなど県民、自治体の熱心さが評価されています。



大野 宏之 氏(全国治水砂防協会理事長、砂防学会会長)
立山砂防を特徴づける水系一貫の土砂管理システムの技術は日本全国、そして世界にも十分通用する技術です。また、砂防施設についてもそれぞれ特徴のある傑作です。白岩堰堤は赤木正雄博士が1カ月も現地で検討し、ハイブリット方式の大胆な構造を採用しています。これらが組み合わさって施設群としてこの流域を守っています。この厳しい環境の中で、この技術が作られたのは人間の英知のなせるわざかなと思います。



西川 英佑 氏(関西大学助教)
日本では世界遺産に推薦する暫定一覧表の見直しを検討されており、新たな候補を選ぶに当たっては現代を含めた時代性、自然との共生、災害への対応、無形遺産との結び付きなどがキーワードになると考えられています。立山砂防は現役の防災施設であり、登録を目指すうえで文化財としてどのように保存していくか議論が必要です。



全国治水砂防協会 森山裕会長が「立山砂防現地視察」のため来県

令和4年3月に綿貫民輔元衆院議長の後を継ぎ、全国治水砂防協会長に就任された森山裕会長が、令和4年8月25日から26日にかけて、就任後最初の現地視察として立山砂防視察に来県されました。

森山会長は、立山カルデラ砂防博物館及び本宮堰堤の視察後、立山砂防工事専用軌道に乗り、水谷出張所を経て白岩堰堤やカルデラ内にある砂防施設群、そして、立山温泉跡地では、綿貫民輔前会長揮毫による「立山の砂防ここより発す」との「立山砂防発祥記念碑」を視察されました。



立山カルデラ砂防博物館視察①



立山カルデラ砂防博物館視察②（国棟）



白岩堰堤から下流を望む森山会長（右から2人目）



綿貫前会長揮毫による立山砂防発祥記念碑にて

令和5年6月 土砂災害防止「全国の集い」 in 富山 開催決定！

令和5年6月1日（木）～2日（金）、富山国際会議場などを会場として令和5年度（第41回）土砂災害防止「全国の集い」が、富山県で開催されます！

【土砂災害防止「全国の集い」とは】

国土交通省では、土砂災害の防止と被害の軽減を目的に、昭和58年より6月を「土砂災害防止月間」と定めています。

土砂災害防止「全国の集い」は、この土砂災害防止月間の主要行事として昭和57年長崎水害の翌年昭和58年から開催（国土交通省と開催県の共催）されてきた全国大会であり、土砂災害防止に関する住民の関心と理解を深め、防災知識の普及等を図るため、シンポジウム、パネルディスカッション、現地研修会などの各種の事業が実施されます。



【先催県での「全国の集い」の開催概況（R4 和歌山県）】

「全国治水砂防促進大会」が開催される

令和4年11月15日（火）、砂防会館別館シェンパツハ・サボー「利根」において、「全国治水砂防促進大会」が開催されました。富山県からも田中富山県治水砂防協会会長をはじめ8名の市町長等が出席しました。

大会では、国土交通省 三上砂防部長より「『いのち』と『くらし』を守る砂防の取り組み」と題した講演や、元富山県副知事でもある新原広島県呉市長から「災害に屈しないまち『くれ』の実現に向けて」と題して意見発表などがあり、最後に砂防事業促進の大会提言について説明がなされ、満場一致で採択されました。

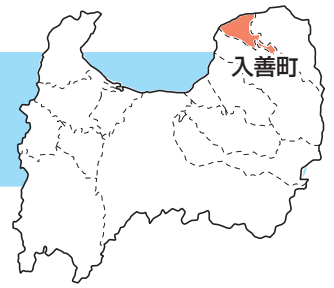
大会後には、県選出国會議員へ要望活動を行いました。





入善町の土砂災害対策について

入善町建設課 藤森 貴之

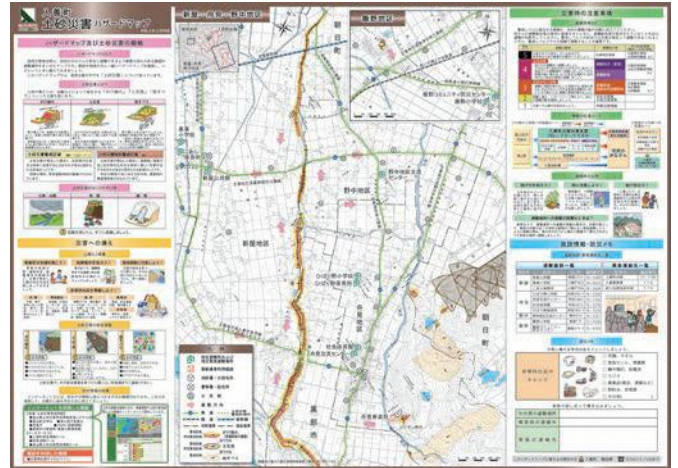


入善町は、富山県の北東部にあり、立山と後立山との間を一直線に奔流する一級河川黒部川が形成した我が国を代表する扇状地の中央部に位置し、遠くに見える後立山連峰が美しく、黒部川の伏流水が各地で自噴するなど水の豊かな地域です。地形的には黒部川が形成した扇状地や、その東に接する舟見野台地と負釣山に連なる丘陵部の3つに分類されます。

町内の土砂災害警戒区域は、町の大部分が扇状地内の平野となっているため、指定箇所こそ少ないものの、行楽シーズンには多くの人でにぎわう園家山キャンプ場の近くや、毎年多くの登山者が訪れる負釣山への入り口、また、里山観光の中心的な存在である温泉施設の付近などにおいて設定されています。そのため、町民だけでなく、町外からの観光客等への注意喚起が重要になっています。

町の土砂災害防止対策としては、ソフト対策として、平成26年度に入善町ほぼ全域を一枚の図面に収めた土砂災害ハザードマップを作成し、令和元年度には、公共施設の建設に伴い避難施設の見直しを行いました。危険箇所をわかりやすく色分けし、避難所や土砂災害の説明、避難時に役立つ情報等を記載しております。町では、土砂災害警戒区域のある関

係地区の全戸に土砂災害ハザードマップを配布するとともに、公共施設など人が集まる場所や入善町のホームページ上でも閲覧できるようにし、土砂災害に関する普及啓発に努めております。



土砂災害ハザードマップ

土木センター・事務所紹介 高岡土木センターの砂防事業

高岡土木センターは、富山県の西部に位置する高岡市、射水市の2市を所管しています。管内の面積は2市合わせて約319km²で県全体の約7.5%、人口は約25万3千人で県全体の約25%を占めています。

管内の西側には山間地域で西山丘陵や二上山が連なり、中央には県の五大河川である小矢部川と庄川が流れており、その下流には扇状地地形をなした広大な射水平野が広がっています。扇状地平野には中小さまざまな河川が多数流れており、これら生活域の中に流れる河川は人々に潤いと恵みをもたらす一方で、交通を遮断し災害をもたらす一面をもっています。

管内の砂防事業は、これまでに砂防指定地30箇所、地すべり防止区域8箇所、急傾斜地崩壊危険区域72箇所を指定し、各種事業を実施しており、現在、堰堤工等の砂防改良7箇所、横ポーリング工等の地すべり対策1箇所、崩壊土砂防止柵工等の急傾斜地崩壊対策3箇所の事業のほか、施設の老朽化対策を精力的に取り組んでいます。

老朽化対策は、現在11箇所で行っており、旧技術基準により設計され、現行の基準に照らすと土石流に対する安全性、安定性が確保されていない砂防堰堤の腹付けコンクリート打設による補強、排水機能に障害が生じている横ポーリング工の再ポーリング、さらに、砂防堰堤の補強では、経済比較により下流に堰堤を新設する場合もあります。



五十里道重(2) 砂防堰堤 本体完成

老朽化対策(改築)の実施にあたり、敷地の拡大に伴い用地買収が必要となること、境界確定に時間を要すること、工事用道路を再整備すること、流水部や人家が近接した箇所での施工を余儀なくされることなど、様々な課題がありますが、効率的な施工方法を検討し、スピード感を持った整備に努めているところです。



西広谷1号堰堤改築 仮設工等の状況

近年、全国的に土砂災害の発生が増加し、県民の土砂災害に対する関心も高まるなか、県民の生命、財産を守るため、引き続き、高岡市、射水市と協力し、老朽化対策を含めた施設整備および住民の警戒避難体制の整備など、ハード・ソフト両面から土砂災害防止対策に取り組んでいきたいと考えています。



沢川1号堰堤改築 境界立会の様子

後進へ告ぐ 一砂防事業から学んだこと一

NPO 法人 富山県砂防ボランティア協会 会長 南保 仁士



〇はじめに

早いもので、県庁を退職して5年になりました。この間、県民の安全、安心、快適な生活を創り・護るといった責任から解放され、日々ストレスなく生活し、最近では悩むこと、考えることも忘れていた自分に、この投稿依頼が舞い込みました。自由を謳歌している自分に、過去を思い出せと。なんとむごい・・・

〇砂防課での3年間と伝えたいこと

砂防課には平成9年4月から3年間、砂防係長として勤めました。それまでもっぱら道路系の仕事に携わり、砂防の経験のない自分でしたが、砂防課や関係者の皆さんにも助けてもらい貴重な3年間を過ごしました。この期間での思い出深い仕事や反省と、その経験から学んだことをつづります。

1. 村の熱意が伝わった「利賀川遊砂地工事」

平成8年、「そば(蕎麦)」がとりもつ縁で利賀村(現南砺市)とツクチェ村(ネパール)友好姉妹村提携の調印がなされ、これを機に砂防を通じた技術交流も始まりました。(詳しい経緯は、当時利賀村職員として八面六臂の活躍をされていた田中南砺市長(富山県治水砂防協会会長)にお聞きください!)

翌9年から利賀川の遊砂地工事にネパールの石積技法を導入すべく、ツクチェ村に石積み技能者の派遣を要請。まずは就労ビザの発給が必要とのことから、外務省へ掛け合ってもらうため、砂防課長とともに着任早々本省砂防課へ。要領を得ない自分の説明にもかかわらず本省で丁寧にフォローしていただき、なんとか来日の目途が。

7月には、ネパール駐日大使、田畑砂防部長(当時)をお迎えして無事起工式が行われましたが、「SOBAとSABOによる国際交流を目指す利賀村の熱意」と「村おこしをきめ細かく支援する本省砂防部の姿」に感動したものでした。

ここで学んだことは、

- ①砂防事業は土砂災害から地域を保全することが基本としつつも、現地の声のできる限り聞いてプラスとなる効果(環境、景観、活用等)を付加すること・努力すること
- ②市町村は、地域をどうしたいかというビジョンを持ち、思いをしっかり伝えることの大切さでした。

2. 「溪流環境整備計画」を見てみよう!!

平成6年建設省(当時)の環境政策大綱が定められたことを受け、砂防でも溪流環境整備計画を策定し「自然環境・景観の保全と創造及び溪流の利用に配慮した事業を進める」ととされました。富山県においても平成8年から学識経験者・行政機関等からなる検討委員会を各土木事務所単位(現センター・事務所)で設け、貴重な意見をいただきながら順次計画づくりを進め、なんとか平成11年10月に公表しました。

しかし、その後(私が直接砂防関係事業に携わることがないせいか)出先にいてもこの計画がどのように活用されているのか、残念ながら目にすることはありませんでした。

昔、「計画というのは完成し公表した瞬間から、何もしなければ陳腐化する。逐次アップデートし、活かし続けることが重

要である。」と先輩から教わったことを改めて感じました。

砂防に携わる現職の皆さん、「溪流環境整備計画」は砂防計画の重要な部分(のはず)です。是非一読し、今の時代にアップデートして、今後の砂防計画及び事業に活かしてください。そうすることで、生態系にやさしく周辺環境にも調和し、一世紀以上も粛々と地域を守り続ける砂防施設になると思います。

3. 砂防って勉強になる!?

砂防の経験のない自分にとって、砂防課の最初のころは施設の構造はもちろん、砂防計画、地形、地質、植生等々未知の世界で大変困惑しました。もっと早く、砂防に携わっていれば・・・以降、現場の視察・調査をはじめ、趣味の山歩きも眺望のみならず、山の荒廃状況や地質、植生などに視点を移すようになりました。

こうした反省もあり、自分が所属長の際は、若手、とりわけ新採は砂防班に配属し、現場や地質等に目を向けてもらうことにしました。

そのメリットは

- ①土木の基礎である地質を直に見られて、勉強できる(特に地すべり担当)
- ②構造物が大きく、施工もシンプルで段取りがわかりやすい(設計書もシンプル)
- ③現場で水の流れ、土砂の動きを感じることができる等々

ということで、大変勉強になります。未経験の方は早めに砂防を経験しましょう!!

〇おわりに

現在、仕事の傍ら、富山県砂防ボランティア協会の一員として、県民の生命と財産を守るため、土砂災害に関する防災知識の普及、土砂災害に関する情報収集等の活動を行っています。県や市町村等で関心のある方の入会をお待ちしております。

また、土砂災害にかかる防災計画の作成、模型実験、研修など防災教育を必要とされる学校、地区があれば、県をサポートする立場で出向きますので、県へ相談してください。

治水砂防協会にかかわる皆さんの取り組みで、着実にハード整備とソフト対策が進み、県土の安全・安心が保たれることを切に願って終わりにします。



利賀川遊砂地工事 起工式(平成9年7月)

富山県総合防災訓練

県では、毎年、災害発生時における迅速かつ確かな防災活動の実施や県民の防災意識の向上を図るため、国の機関、市町村、広域応援協定を締結している他県や団体、防災関係機関の参加のもと、大規模地震災害等の各種災害を想定した実践的な総合防災訓練を実施しています。

今年度は小矢部市のクロスランド小矢部を会場として避難所開設訓練など各種訓練の他、災害体験・啓発展示などが行われました。

砂防課では、県民の土砂災害に対する防災意識の向上を図るため、小矢部土木事務所及び砂防ボランティア協会と共同で、土砂災害に関するパネル展示等を行いました。

当日は、一般の方をはじめ、新田知事もブースを視察されました。



土砂災害に関するパネル展示



砂防ボランティア協会員による説明



新田知事視察

令和4年度富山県治水砂防協会通常総会の開催

令和4年8月8日、富山県治水砂防協会の令和4年度通常総会が、富山県民会館で開催されました。

議事では令和3年度の事業報告・収支決算報告、令和4年度の事業計画・収支予算について審議の結果、すべて承認されました。

総会に引き続き、砂防功労者として、永年にわたり本県砂防事業の推進に貢献された高橋正樹氏、上田昌孝氏及び大野久芳氏が表彰されました。

また、砂防講演会において、国土交通省砂防部の三上部長から「[いのち]と[くらし]を守る砂防」、(一社)全国治水砂防協会の大野理事長から「土砂災害と砂防」と題した講演のほか、国土交通省立山砂防事務所の三輪所長、黒部河川事務所の林所長、神通川水系砂防事務所の石井所長、土木研究所雪崩・地すべり研究センターの吉柳上席研究員、から各事務所及び研究所の「事業概要」等についてご説明をいただきました。



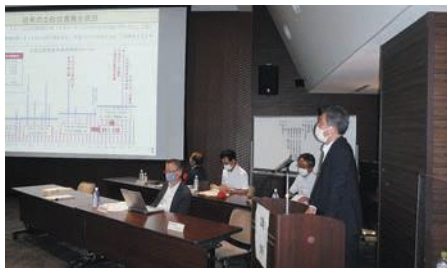
田中会長による挨拶



表彰 (高橋正樹氏)



表彰 (大野久芳氏)



砂防講演会 (国土交通省 三上砂防部長)



砂防講演会 ((一社)全国治水砂防協会 大野理事長)

富山県治水砂防協会「立山砂防現地視察」

富山県治水砂防協会では、協会会員に対して砂防事業に対する認識と理解を深めるため、毎年、立山カルデラ内で実施されている直轄砂防事業の現地視察を行っており、今年度は、令和4年10月11日（火）に、18名の参加を得て実施しました。

当日は好天に恵まれ、多枝原平展望台において「崩れ」の現状を見ることができました。また、立山砂防の基幹施設である重要文化財の白岩砂防堰堤や植生が回復した泥谷砂防堰堤群、古くから栄えていた立山温泉跡地等について立山砂防事務所の方からわかりやすくご解説いただきました。

参加された皆様には、自然の脅威、現在もお進められている土砂災害との闘いの歴史、砂防施設が果たす役割等を認識する、貴重な体験になったことと思います。



護天涯の碑



多枝原平展望台にて



白岩砂防堰堤にて

立山カルデラ砂防博物館 来館110万人達成

令和4年9月16日（金）、立山カルデラ砂防博物館では来館者110万人を達成しました。

110万人目は川崎市の渡邊桃子さんで、成瀬龍也館長から入館記念証と記念品の目録が贈られました。富山を初めて旅行で訪れた渡邊さんは「立山黒部アルペンルートを訪れ、より深く学びたいと思って博物館に立ち寄りました。いろいろな展示を見ることができてよかったです。」と笑顔で話してくださいました。

博物館は1998年に開館し、25年目を迎えています。立山や立山カルデラの自然や歴史、砂防について紹介しており、成瀬館長から、「来て、体験しないと立山カルデラや砂防のすごさを分かってもらえない。これからも体験学習などを続けていきたい」などの話がありました。



立山カルデラ砂防博物館で砂防を題材とした「創作落語初披露会」開催

令和4年12月14日（水）と15日（木）の2日間、立山カルデラ砂防博物館にて、富山市出身の落語家柳家さん生さんによる創作落語「砂防さん」初披露会が約180名の砂防事業関係者を招いて開催されました。

本落語は柳家さん生さんが、落語で富山の魅力を発信する「とやま噺」の第一作として制作されたもので、立山砂防工事の草創期におけるエピソード（吉友嘉久子作「巨石が来た道」より）を盛り込みながら赤木正雄さんら砂防に携わる人々を描いた人情噺です。

参加者からは、「感動した」、「多くの人にも知ってもらいたい」などの感想が寄せられました。

初披露会の記念に、柳家さん生さんから「日々好日 砂防にあり」と色紙に書いていただきました。色紙は博物館の受付に展示してあります。

令和5年2月には、一般の方向けに富山市のてるてる亭において初披露会が予定されています。



富山県 立山カルデラ砂防博物館ニュース

「立山や立山カルデラの自然や歴史、そこで行われている砂防」をテーマに様々な企画、展示を行っています。

★申し込み、詳細については博物館までお電話ください。 TEL. 076-481-1363 (学芸課)

◆今後のイベント案内

特別展「雪の壁のひみつ」(観覧料：無料)

開催期間：4月14日(金)～5月21日(日)

春の立山の風物詩「雪の大谷・雪の壁」に秘められた秘密を紹介します。

岩橋崇至写真展「立山黒部」(観覧料：無料)

開催期間：4月14日(金)～5月21日(日)

日本を代表する山岳写真家である岩橋崇至氏の立山黒部をテーマとした大型作品を紹介します。

土砂災害防止月間特別展「ハザードマップ」

開催期間：5月27日(土)～7月2日(日)

防災・減災に役に立つハザードマップの活用方法や富山県内で整備されている様々なハザードマップを紹介します。

フィールドウォッチング「春の立山・雪の大谷」

(参加者負担金有)

開催日：5月7日(日) 8:30～17:00

定員：40名(先着順、要申込)

対象：小学3年生以上(小・中学生は保護者同伴)

受付開始：博物館ホームページでご確認ください。

「雪の壁」を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感しそこに秘められた情報を探ります。

立山カルデラ砂防体験学習会(参加者負担金有)

開催期間：令和5年7月～10月まで(予定)

※博物館ホームページまたは県施設・市町村役場等に配布する「応募のてびき」をご覧ください。(5月中旬頃より公開・配布予定)

◆令和4年度活動報告

特別展「春の立山 雪の壁のひみつ」

開催期間：令和4年4月15日(金)～5月22日(日)



立山黒部アルペンルートの開通に合わせ春の立山の風物詩「雪の大谷・雪の壁」についての特別展を博物館エントランスホールで開催しました。1998年から2021年まで過去23年間の雪の壁の高さのグラフ、雪の壁の作り方、どうして雪の壁では雪が多いのかについて壁面パネルで紹介しました。また、雪の大谷

は2000年まで1車線分のみ除雪されていて、時間を決めて車を通行止めにして見学していました。雪の大谷・雪の壁昔コーナーと称して1998年ごろと現在の雪の大谷の写真を展示したところ、「昔はこうだった」と懐かしそうに見入っている高齢の観覧者もいました。

土砂災害防止月間特別展「土石流」

開催期間：令和4年5月28日(土)～7月3日(日)

土砂災害防止月間にあわせて土石流など雨による土砂災害の発生に関する特別展を企画展示室で開催しました。パネルでは、雲の動き方、雲から雨へ、温帯低気圧や台風のしくみ、土砂災害と雨との関係について紹介しました。このほか、土石流発生についての映像を大型モニターで上映しました。また、関連イベントとして6月18日に「安心・安全につながる気象情報」と題した特別講演会を大型映像ホールにて開催しました。講師としてNHKラジオ気象キャスターの伊藤みゆき氏と伊藤和明前名誉館長をお招きし、近年の災害と気象について語っていただきました。



企画展「～植物標本庫～」

ハーバリウム立山

開催期間：7月23日(土)～9月25日(日)

「ハーバリウム」と言えばピン詰めの植物インテリアをイメージするかもしれませんが。しかし本来は「植物標本庫」を意味する言葉です。立山地域では、多種多様な植物が過去から現在、そして未来へと命を繋いでいて、その営みはまさに「生きた植物標本庫」です。展示会では、山地帯・亜高山帯・高山帯・崩壊地(立山



カルデラ内)を代表するブナ・オオシラビソ・ハイマツ・オオバヤナギ等の樹木や草花を超大型パネルとスライドショーで紹介し、植物と共に生きるクロサンショウウオの幼生や昆虫・鳥獣の標本と生態写真、枯木や落葉を食べて分解するヤマトシロアリ等の群れ・大きさ1～3mmの小さな陸産貝類、昆虫を栄養にしてキノコをつくる菌類[冬虫夏草]の標本等を展示しました。この他、ポタニカルルーム(小部屋)にはカタクリなど野草やガズミの実などをピン詰めにしたハーバリウム、額装した押し花、葉をスタンプにを使ったタペストリーを飾り、香りの展示コーナーではオオシラビソから抽出した芳香蒸留水やオオバクロモジなどのアロマオイルを楽しんでいただきました。立山産の植物を封入した越中和紙でおしゃれに演出した会場は博物館らしからぬ雰囲気、雑貨店やデパートの様でもありました。

コロナ禍は続いていましたが、7,249名と多くの方にお越しいただき、五感を使って多面的に植物へ親しんでいただくことができました。



全国がまだすドーム巡回展

「1991雲仙普賢岳噴火災害を振り返る」

開催期間：令和4年10月4日(火)～12月18日(日)

2021年で30年が経過した国内未曾有の火山災害である長崎県雲仙普賢岳の噴火災害についての全国火山系博物館連絡協議会巡回展を企画展示室にて開催しました。パネルでは様々な噴火現象と災害、1991年に雲仙普賢岳で何が起こったのか、雲仙火山の歴史と未来、火山の恵みについて紹介しました。災害を語る被災者資料として報道陣が実際に使用していた被災カメラ、火砕流の熱風で融けたガラス瓶やビールケース、靴底だけが残った状態の被災靴の実物を展示しました。生々しい被災者資料を見ながら、この噴火災害で火砕流という言葉を知ったと話している観覧者もいました。関連イベントとして11月3日に雲仙岳災害記念館長の杉本伸一氏と伊藤和明前名誉館長をお招きし、特別講演会「雲仙普賢岳噴火災害を振り返る」を大型映像ホールで開催しました。



立山カルデラ砂防博物館の開館案内

開館時間：通常開館9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(祝日除く)、祝日の翌日(土・日曜日除く)、年末・年始(12/28～1/4)

※開館時間、休館日は博物館HPにて最新情報をご確認ください。(早朝開館、臨時開館、閉館等あり) 観覧料：立山カルデラ展示室・大型映像の観覧料として一般400円(大学生以下、70歳以上無料)、企画展示室・SABO展示室は無料 所在地：〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68 TEL.076-481-1160/FAX.076-482-9100 <http://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>